

投資事業評価調書(継続:再評価)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (主幹兼国道係長 北村 昭二)		内 線	4362 (4374)
事業種 目	道路事業	事業名		事業区間	総事業費	33億円
		国道372号道路改築事業 日置バイパス		篠山市辻～八上上	内用地補償費	14億円
所在地		事業採択年度		着工 年度	完成予定 年度	進捗率 (内用補進捗率)
篠山市辻～八上上		H8		H8	H18	約98% (約93%)
事業の目的				事業内容		
<p>・国道372号は播磨地域と丹波地域を結ぶ幹線道路であり、阪神淡路大震災時には臨海部幹線道路の代替ルートとして機能した。</p> <p>・しかし、当該区間は幅員狭小で歩道未整備区間もあるなど、交通の隘路となっている。</p> <p>・そのため、バイパスを整備し、緊急輸送路ネットワークの形成、未改良区間の整備、自転車歩行者の安全性向上等を図り、地域活性化、産業基盤の安定に寄与する。</p>				<p>道路改築事業 L = 4,550m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東工区 : L = 2,350m ・西工区 : L = 2,200m <p>【計画幅員】6.5(12.0)m(2車線+片側歩道)</p> <p>【現況幅員】5.3(5.8)m(1車線+歩道無し)</p> <p>【計画交通量】8,900台/日(H42年度推計)</p> <p>【現況交通量】9,663台/日(H11交通センサス)</p> <p>【負担割合】国:5.5/10 県:4.5/10</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化		<p>・近年の厳しい財政事情の下、既存ストックの有効利用、投資効果のより一層の向上及びコスト縮減が求められており、他事業において発生した残土の盛土材利用及び東工区の自転車歩行者道計画の見直し(両側 片側)等を行った。(縮減額 約5.1億円)</p> <p>・早期の用地買収、盛土材の早期確保により、完成予定が1年前倒しとなった。</p>				
進捗状況		<p>・H8年度から西工区に着手、H11年3月に約2.2kmを供用(西工区概成)</p> <p>・H11年度から東工区に着手、H17年3月に起点側約0.6kmを供用</p> <p>・用地買収率は91%を越えており、早期事業効果を発現するために、土地収用法に基づく事業認定手続きを進めており、H18年度前半までに用地買収を完了させる。</p>				
評価視点		評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心の確保		<p>・国道372号は、阪神淡路大震災の時に機能が麻痺した臨海部幹線道路の代替路線として見直されるとともに、緊急輸送路に位置づけられており、防災面での必要性が高い。</p> <p>・当該区間の沿道には人家店舗等が連たんし、地域住民の重要な生活道路でありながら大型車混入率が20.4%と非常に大きく、幅員狭小で極めて危険な状況となっているため、バイパスを整備し大型車等の通過交通を排除することで地域の安全と安心を確保する</p>				
地域の活性化		<p>・自転車歩行者道を整備することにより、歩行者や自転車の安全が確保できる。</p> <p>・当該区間の整備により、舞鶴若狭自動車道等の高規格幹線道路と一体となって広域的な交通ネットワークを形成する国道372号の機能強化が図られ、地域間交流を促進し、観光や産業の発展に寄与する。</p>				
(2)有効性・効率性		<p>・東工区については、H18年度前半までに用地買収を完了する予定であることから、H18年度完成に向けた円滑な事業執行が可能である。</p> <p>・費用便益比 B/C = 2.4</p>				
(3)環境適合性		<p>・大型車等の通過交通を排除することにより、沿道の生活環境が改善される。</p> <p>・植樹帯を設けて緑化に努めるとともに、歩道部に透水性舗装を施工して、環境への影響を最小限とする。</p>				
(4)優先性		<p>・当事業の実施により、未改良区間が解消され、緊急輸送路ネットワークの整備が進むとともに、地域の安全安心が確保されることから早期完成が望まれる。</p> <p>・H18年度前半までに用地買収完了予定であり、H18年度末全線供用が可能である。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	<p>・事業進捗が約98%であり、H18年度完成の見込みが立っていることから、継続して事業を実施する必要がある。</p>			